

学校関係者評価委員会
平成30年度 第1回委員会 議事録

1. 日時および場所

日時：平成30年10月9日（火）18：00～20：00

場所：修成建設専門学校 146 教室

2. 出席者（順不同）

委員

丸山徹、相賀勝、藤田晴樹、山崎充、武井彰、田中文雄、大和正、荻野紀三子

（計8名）

学校（オブザーバー）

山下裕貴、堤下隆司、谷川博康、増田和浩、見邨佳朗、野瀬孝男、中安哲男、亀井哲男

（計8名）

（参加者合計16名）

3. 配布資料

資料1-1：平成30年度 第1回委員会 議事次第

資料1-2：参加者出席名簿

資料1-3：平成29年度 第2回学校関係者評価委員会議事録（案）

資料1-4：平成29年度 第1回保護者－卒業生対象意見交換会議事録

資料1-5：学校自己評価報告書採点用紙と返信封筒

4. 議事次第

(1) 開会挨拶（資料1-1）（資料1-2）

堤下校長の開会挨拶、藤田委員長の挨拶に続いて、山下理事長により挨拶および学校の近況について報告がなされた。

(2) 議事内容説明（資料1-1）

堤下校長から本日の議事内容について概要の説明が行われた。

(3) 前回議事録の確認

1) 前回（平成29年度第2回委員会）議事録（案）確認（資料1-3）

中安科長より前回開催された平成29年度第2回学校関係者評価委員会（平成30年2月15日実施）議事録（案）についての説明があり、その内容について全会一致で承認された。

2) 第1回保護者－卒業生対象意見交換会議事録の参照（資料1-4）

堤下校長より第1回保護者－卒業生対象意見交換会（平成29年12月2日実施）議

事録（承認済み）については、参考として添付している旨の説明があった。

(4) 平成 29 年度 学校自己評価報告書について

堤下校長より、事前に配布している「平成 29 年度学校自己評価報告書」についての概略の説明があり、続いて各担当者より報告があった。

①建築学科（昼・夜）、建築デュアルシステム科（夜）・・・増田

- ・ 第 1 本科（昼）建築学科は、前年度から、設計、施工に積算を加えた三本柱を設定し、オールラウンドな建築技術者育成に取り組んでいる。その積算の強化を図るため、積算士補にチャレンジさせてきた。今年度はほぼ全員の受験をさせることができたが、合格率を更に上げる努力をしていきたい。また、インターンシップやオープンデスクにも積極的に参加させ、就職への意識づけを促した。その他、資格取得についても、福祉住環境コーディネーター、カラーコーディネーター、建築 CAD 検定、宅地建物取引士などを選択させ受験させている。進路決定率は 99.0%で、就職先の企業には教員が訪問調査を行っている。
- ・ 第 2 本科（夜）建築学科は、第 1 本科と同様に、設計、施工に加え積算士補の取得を視野に入れ、福祉住環境コーディネーターや建築 CAD 検定、宅地建物取引士などの資格も授業の中で対策している。第 2 本科生は集中力があり、短い時間の中、仕事に勉強に充実した 2 年間となっている。進路決定率は 97.1%であった。

②建築 CG デザイン学科、空間デザイン学科、専科 2 級建築士学科・・・見邨

- ・ 建築 CG デザイン学科は、デジタル表現を身につけるだけでなく、デッサンなどのアナログで考える基礎力を身につけるべく、パース検定に取り組んでいる。また、90%以上が設計希望のため、入学時から専科への進路を指導している。今後は BIM の指導を充実させていく。
- ・ 空間デザイン学科は、「考える」「つくる」「伝える」を教育の柱として取り組んでおり、習熟度別の評価を行っている。また、必要な資格をどのようにしていつ取得するのかを理解できるよう指導している。
- ・ 専科 2 級建築士科は、2 級建築士の合格率が 80%を超え、全国平均 24.3%を大きく上回っている。今後も高い合格率が維持できるよう努力していく。

③住環境リノベーション学科・・・増田

- ・ 住環境リノベーション学科は、施工管理に特化した学科のため、2 級建築施工管理技士（学科）の合格と、丸のこ等取扱い安全衛生教育、クレーンの特別教育等の建築現場において必要な資格を取得するなど、施工管理の即戦力を目指すよう努力している。進路決定率は 100%であり、昨年度から、大工希望者の入学が増えている。

④土木工学科、建設エンジニア学科・・・野瀬

- ・ 土木工学科は、建設業において必要な企画立案・調査・設計・施工計画・運営管理を行う管理者の養成を行っている。企業連携の協定を結び、各企業で働く専門家に

講師を依頼し、建設業の現状を話してもらっている。また、2級土木施工管理技士の学科、測量士補の資格、その他労働安全衛生法に関する資格として、職長安全衛生責任者教育、足場特別教育、小型車両系建設機械特別教育などの修了証取得を行っている。進路決定率は97.1%であった。

- ・建設エンジニア学科は、土木分野の中でも施工に特化し、建設機械のオペレーターとしての技能を習得させている。就職ガイダンスやSPI対策講座などを実施し、平成29年度の進路決定率は100%で全員が施工管理であった。

⑤ガーデンドesign学科・・・中安

- ・ガーデンドesign学科は、平成28年度より取り組んでいる企業、地域、自治体などの関係諸団体との連携を図った実践教育を行っている。専門の教育だけではなく、コミュニケーション能力の習得やマナー教育にも力を入れるなど人材育成に努めている。ものづくりの計画から完成までの流れを講義、見学、演習、実習を順序立てて構成し、相互関係を理解し、学ぶ意味と意欲につながる内容としている。
- ・学習成果としては全員合格を目指している2級造園施工管理技術検定学科の合格率は81%で、3級造園技能士の合格率は85%であった。卒業生の社会的評価は良好であり、平成29年度の進路決定率は100%である。

⑥学生支援、教育環境・・・亀井

- ・就職等進路に関しては進路決定率99%と高く、専科2級建築士科への進学者も年々多くなっている。昨年は約1400社からの求人があり、3月には合同企業説明会を実施することができた。また、インターンシップの参加者は夏と春で約67%となり、全員参加に向けて努力をしているところである。
- ・中途退学への対応に関しては、入学者に対して責任を持って教育し卒業させる目標で臨んでいる。中途退学の原因は学力、進路変更、経済的な理由などさまざまであるが、基礎数学テストの実施、心理検査の導入、経済的問題では校納金の延納や分納の提案などを行っている。また、学生の抱える心身の相談については、学生相談室を設置して、心身の問題だけではなく、進路相談や生活上の悩み事などの相談も行っている。その他、学内の学費サポート制度、特待生制度、後援会組織を充実させ、学生生活のサポート、保護者と一体化した支援を行っている。
- ・教育環境に関しては、施設・設備を充実させる一方、4階のルーフバルコニーに日本庭園を学生たちの手で作った。また、卒業後の進路決定の参考にするため、インターンシップや企業実習を実施している。火災や地震の避難訓練等も実施している。

⑦学生の募集と受け入れ、財務・・・山下

- ・学生募集と受け入れに関しては、おおむね良好であり、適切な活動をしている。今年度よりリカレント入試などの入試の方法やインターネット出願を実施している。

財務については問題なく良好である。

⑧法令等の遵守・・・谷川

- ・ 関係法令や専修学校設置基準は、学校運営の基本であり、全教職員に対して理解および遵守のための啓発、研修を実施している。個人情報については、セキュリティ強化に努め、適正な取り扱いに関する継続的な研修を行い、更なる拡充を図っていく。また、教育情報の公開をウェブサイトにて行っており、今後も継続的に行う予定である。

⑨社会貢献・国際交流・・・亀井

- ・ 社会貢献の取り組みとして本校は、西淀川区役所との連携を進めている。今後、日本建築家協会（JIA）などの各団体との連携を進めていく予定である。
- ・ 国際交流としては、日本国内の日本語教育機関との提携により、意識の高い留学生の入学を進めている。
- ・ ボランティア活動に関しては今後の課題であり、クラブ活動を活用するなどして支援をしていきたい。

(5) 質疑応答

積算士補はどのような特典があるのか。

→積算士試験において1次試験が免除される。

土木系学科において2級機械施工管理技士を受験させないのか。

→2級機械施工管理技士については別途実務経験が必要となるので、今は考えていない。土木工学科では2級土木施工管理技士を中心に取得を考えている。

管理運営規定にはセクシュアル・ハラスメント等の内容が入っているか。

→既に対応済みである。平成29年度については、改正育児介護休業法へ対応するため、就業時間等についての変更を行った。

BIMはどのような取り組みをしているか。

→建築CGデザイン学科では、1年生時に世界で最も使用されている「AutoCAD」を、2年生時には3D、4Dを学習している。最近では大手企業だけでなく、中小企業でも人材不足に対応してBIMが検討されてきている。

留学生の進路について教えてほしい。

→以前は大学編入を考えている留学生が多かったが、近年は日本で就職する留学生が多くなっている。外国人はしっかりと働いてくれるという声も多くなっている。

普通自動車運転免許について、学校ではどのように指導されているか。

→普通自動車の運転免許は必須と考えている。AT限定ではなく、マニュアル免許取得を指導している。

災害時の対応について説明してほしい。

→地震や台風時の休講等連絡は、学校HP上に掲載するとともに、学内Line「修成

学内 info」等の通信手段を通じて学生へ周知させている。また、学内用の災害時安否確認システムを設けるとともに、各クラス担任を通じて、学生の安全確認を行っている。備蓄については、保管場所の確保が難しいため、現状は最低限のものを考えている。

(6) その他

学校自己評価報告書採点用紙返送締め切りは、平成 30 年 11 月 17 日。また、議事録確認は 1 カ月を目処に行うことを全委員の了承を得た。加えて、11 月 3 日開催の「修成祭」についての案内がなされた。

(7) 次回会議開催予定

日時：平成 31 年 2 月中旬

場所：修成建設専門学校 146 教室

内容：平成 29 年度学校関係者評価報告書について

以上

(記録・文責：増田和浩、谷川博康)